



入院中に多職種で行う栄養管理： 栄養サポートチーム Nutrition Support Team: NST



看護部 看護師
すなはら たかこ
砂原 貴子

第6回目は看護師の砂原貴子が担当させていただきます。
今回は、多職種連携についてです。

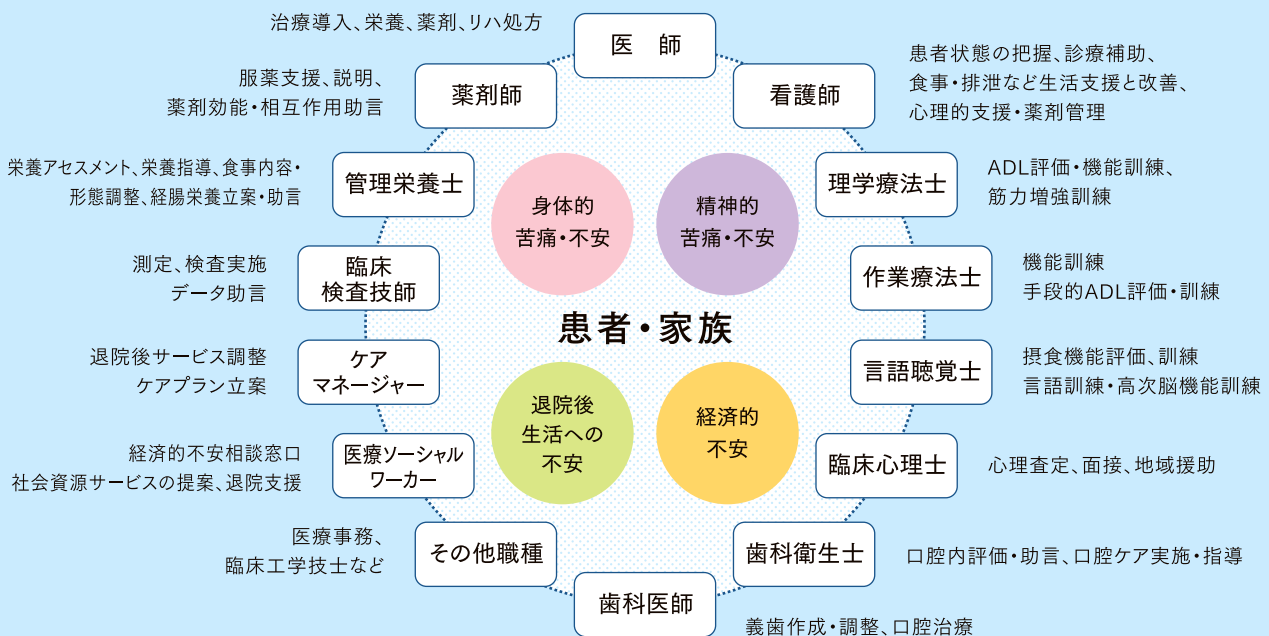
どうして病院で多職種連携が必要なの？

多職種連携とは、患者様を中心に医師や看護師、セラピスト、管理栄養士、歯科衛生士、薬剤師など、異なる専門性をもった職種が同じ目標に向かって、補完し合い、協働することをいいます(図1)。

本邦は超高齢社会に伴い、入院患者層も高齢者へとシフトしています。高齢者は多病で、低栄養やサルコペニア、フレイル、認知機能低下など複数の身体的・心理的問題を抱えており、これまでの疾病中心の治療では対応しきれなくなっています。さらに老老介護や高齢者の一人暮らしなど社会的問題も加わり、従来の医師単独の判断、治療方針を決定する診療スタイルでは、問題点が見落とされてしまいます。

そこで現代の医療では、多職種が関わり情報共有し、協力し合うことで、患者様一人一人に幅広い視点で、専門職種のきめ細やかなより良い医療の提供、社会復帰へ向けた支援ができる“多職種連携”が必要とされています。

図1 患者様を中心とした多職種連携における専門職種の役割



栄養のトラブルは早期発見と早期対応が大事

当院では各病棟に栄養サポートリンクナースがいます。入院中の体重の増え・減りが気になる、食欲がわかない、食事が減った、飲み込みや口の問題など、栄養の“気になる、困った!”があれば、お気軽にご相談ください。看護師から多職種へと橋渡し役となり、患者様の栄養改善を支援いたします。

また当院では毎週金曜日午前中に栄養サポート外来を行っております。在宅生活の中で、栄養の“困った!”を感じたときは、どうぞお気軽にご来院、ご相談ください。